

No. 10

6月号

令和5年
2023・5・20



日立市視聴覚センター通信

みて、きいて、学びを楽しく

みきまた

編集・発行
日立市視聴覚センター
〒317-0073
日立市幸町1-21-1
電話：0294-24-5055
FAX：0294-24-5066

参考資料：『校歌によまれている日立市の地域環境』佐藤惣一 1990 日立史苑3号

校歌

特集

あの時、あのころ、無形の文化財として

問題です。どこの校歌でしょうか。

- 1 澄みわたる 空に舞い立つ鳩の群れ
はるか真弓の山光る
●●●の学びやは 燃える希望に輝いて
いつも楽しい 日をあげむ
- 2 久慈川の 水にしみつく雲の影
岸のすすきの穂がゆれる
●●●の学びやは 寒い風にも耐えぬいて
いつも明るい 歌を持つ



学校の理想や精神等を盛り込み、作詞、作曲された校歌の目的は、児童や生徒に歌わせることにより校風を発揚することです。特に、歌詞には、その地域の特色が表現されていますので、郷土を知る資料としても貴重なものです。

この校歌の1、2番には真弓山と久慈川がうたいこまれていますので、該当学校として、久慈小学校をはじ

め南部の5校が当てはまります。さらに、絞り込むために、学校から見える景観がどのように表現されているかをイメージしてください。

悠久と流れる久慈川の水面には雲

の影が映りこみ、岸辺のススキが揺れているダイナミックな自然景観を、遠景ではなく近景として臨める学校です。さらに3番を紹介します。

3 砂山の果てにそびえる原子炉に海のかもめの日がうらら

●●●の学びやは 結ぶ互いの友情にいつも平和な 灯をともす

東海村に一番近い学校、それは東小沢小学校です。

作詞家・酒井清一さんは昭和38年校歌を創作するにあたり、関東平野の北端に位置するこの学校を訪問、雄大に広がる自然景観に感銘を受け、次代を担う子どもたちが口ずさむ校歌に、学び舎としての理想像を託したのではないかと思います。



昭和62年(1987)3月、「市内には38の小中養護学校があり、すでに閉校となった学校もあり、卒業生にとって、心のよりどころとなる校歌が消えつつあるのも現実である。そこで、市内の各学校の校歌を一括収録、保存し、

広く市民の要求に対応できるようにする」(『昭和61年度年報』)ことを目的に当センターは視聴覚教材『日立市立小中養護学校校歌集』(録音テープ付き)を発刊しました。

それから約40年が経過した現在、さらに少子化が進行するため、本市は「学校再編計画」により市民と共に統合を推進しています。

大正5年(1916)創立、平成28年(2016)に100周年記念を地域と共に祝いした東小沢小学校は、今年度をもって107年の歴史を閉じます。

今後閉校により、地域の風土と理想を託した校歌は役目を終えますが、無形の文化財として、また、あの時、あのころを思い出す地域の心の歌として生き続けていくと思います。

ウォーキング with ダイナソー

第1、2巻イギリスBBC オリジナルシリーズ 製作総指揮：ジョン・リンチ
第3巻：タイムスリップ恐竜時代 第4巻：海の恐竜たち 第5巻：伝説の恐竜ビック・アイ
1999～2003年公開 時間：約90分 貸出番号：1201121～1201125

2億2千万年前三畳紀の恐竜出現から、ジュラ紀、白亜紀を舞台にしており、最新の研究と科学的検証に基づき、恐竜の過酷な生存競争をリアルに描いた恐竜ドキュメンタリー作品。

今月の
オススメ
鈴木

